

◇ 9/8 (火) スマイルポーション「戦後70年、歴史の真実を学ぶ」第4回

テーマ：丸山真男は、日本軍の病根をどのようにとらえたか？

戦争が可能な国家に向けて、安倍政権の暴走が続いています。日本は満州事変以降15年、軍部が暴走したが、その病根は何だったのでしょうか。



18:00 開場 18:30開始 参加費：無料 場所：里山デザインファクトリー（鴨川市金東375-1）

後援：鴨川自然王国T&T研究所（04-7099-9011）

連絡先：田中 正治 tel/fax 04-7098-0350 masa-fly@sisu.ocn.ne.jp

◇ 9/13 (日) 「小さき声のカノ」上映&鎌仲ひとみ監督×Yaeさんトーク

福島、そしてチェルノブイリ語のベラルーシ。国境を越え、母たちは「希望」を選択し、自分たちの足で立ち上がった。

13:40 開場 14:00 開会

場所：大網白里市保健文化センター3階ホール（大網100-2）

参加費：前売り 大人2000円 中学生1000円/当日 大人2500円 中学生1300円

☆ 17:00より、近くの「大里総合管理2階にて「井戸端交流会」（別途800円、おにぎりとお茶つき）

主催：「パーマカルチャー井戸端会議@ちば 共催：子どもと一步の会

申込み：メール perma.kobata@gmail.com fax 0475-34-8175

親子スペースあり



◇ 11/1(日) 土と平和の祭典

大地に感謝する収穫祭！今年は国際土壌年、そして戦後70年—テーマは「命こそ宝」環境配慮型農業と農的暮らしの、日本最大級のフェスティバルとして今年9回目の開催です。賛同アーティストたちによるステージや、農業や社会のこれからを語り合うトーク企画も。緑の党グリーンズジャパンでも、「グリーンマルシェ」を出店予定！

9:30スタート 場所：日比谷公園 芝生広場

グリーンズ千葉は「緑の党グリーンズジャパン」との連携組織です。

ともに、グローバリ、グリーンズ憲章の6つの理念

- 1. エコロジカルな知恵 2. 社会的公正・正義 3. 参加民主主義
- 4. 非暴力・平和 5. 持続可能性 6. 多様性の尊重 に基づき、「緑の社会ビジョン」実現をめざします。

271-0092 松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F
Tel/Fax 047-360-6064
HP <http://greens-party-chiba.jimdo.com/>



入会・カンパ募集中！！

年会費：会員/3,000円 サポーター/1,000円 (郵便口座 00120-1-687008)



グリーンズ千葉便り 第9号

—地球規模で考え、活動は足元から—



Contents

- * グリーンズ千葉・合宿 (8/1-2) 報告
- * 「空き家」対策から、まちづくりへ
- * [インタビュー] ~千葉から世界へ~ 土を耕す！未来を耕す！
- * 「市民エネルギーちば」代表 東 光弘さんに聞く
- * 農遊舎の「農的くらし」
- * イベント情報

写真/大多喜町 (Noriko Murayama)



今西さん宅の醤油畑の前で。発酵中の、いい香り！

22日(日)は、25年ほど前に移住してきた今西徳之助さん宅を訪問。民家の一部屋で小さなスクリーンに写真などを映しながら「里山お助け隊」や「安房手造り醤油の会」の活動について、時間短縮の説明を聞きました。

今年で3回目となる夏合宿に、初参加しました。合宿テーマは「戦争の作られ方」から学ぶ「戦争の止め方」で、戦後70年の節目に、私たちにふさわしいものでした。最初に、オリバー・ストーン監督「もう一つのアメリカ史①」上映の予定でしたが、DVDと機械のメンテナンスで残念ながら上映できず、田中正治さんから、「第二次世界大戦とは何であったのか」との話題提供があり、資本主義の本質としての、市場再分割のための戦争だったことを改めて実感しました。その後、グループに分かれ「戦争の作られ方」について意見交換をして学びました。民衆の側から「空気の支配」を打ち破れなかったことも反省しなくてはと思います。

緑の党はグリーンズ千葉共催 夏合宿 (8/1、2 鴨川自然王国) 報告

午後には武蔵一羊さんから「樞石による 国家改造の性格」と題した90分ほどの講演。戦後70年という「米国の覇権原理」② 憲法の平和・民主主義 ③ 大日本帝国の継承原理 ④ ⑤の相互に排除しあう正統化原理を折衷的に統合する構成体として成立し続けているという視座から、今の及ぶ政権の半クォーターを批判し、戦後70年をアベとは別の政権で越えていく、原理次元でのたまたかの必要性を熱く語られました。講演を受けて、5つのグループに分かれて戦争の止め方について、話し合いました。松戸のグループからは、中央都内だけでなく、全国各地で行動を起し、つなげていく重要性が語られ、7月16日の衆院強行採決日を境にして、安採法案の賛否を聞くシール投票の今後の反応が大きく変わった、松戸のどよめき！戦争法案松戸アクションの報告がありました。あつという間の、みどりらしい、素敵な合宿でした。人と自然とすべてに感謝！！ (小西 正人)



高齡化、過疎化が進む中のご苦労が感じられました。帰り際に見せて頂いた、仕込中の醤油たまりでは、深いたまりの色大豆たちがぎゅぎゅと詰まっています。発酵中！ちやうど今西さん宅にいらした20代の青年は麹屋さんを志して、この醤油造りにも一役かっているとのこと。お盆の昼食では、飛び入りの投げ銭ミュージシャンが来ていて、珍しい民族楽器の演奏を聴きながら、オガノックのバスタをいただきました。

「空き家」対策から、まちづくりへ

近頃、マスコミで「空き家」問題が取り上げられています。天災による家屋の倒壊、不審者の侵入や放火の危険性があり、景観上も治安上もよくありません。日本の住宅戸数が約5400万戸。すでに空き家は700万戸あり、5年後には1000万戸を越し、2040年には4割に及ぶと推測されています。早くも空き家対策に乗り出した自治体もあり、条例を制定しての強制取り壊しや補助金を出す例もありますが、本格的な対策はまだ取られていません。また、更地にする固定資産税が6倍にもなるため、取り壊しが進みません。

今「アベノミクス」でマンションや一軒家の新築が急激に増えている一方で、中古住宅は中々売れません。なぜなら、新築の場合には税の減免等の優遇政策があるからです。今後、団塊の世代が高齢化するに従い、空き家問題はいつそう深刻化します。住宅関連の税制でも、建築関連法も、都市計画法も見直しが必要です。このまま制度を変えないと、空き家どころか消滅する自治体が出るとも言われています。しかし今なお、寿命の短い安価な住宅が次々と作られ、挙げ句にローン破産が空割を繰り返しています。見通しのない住宅バブルは、団塊世代が後期高齢者になり、東京オリンピック関連の建設が終了する5年後には破綻します。そこで、人と環境にやさしい空き家対策とまちづくり、そして、居住の自由と権利の視点で緑的な政策を考えてみました。

- ① 国産資材の使用、住宅の長寿命化
- ② 質の良い中古住宅のリフォーム促進
- ③ 建築資材リサイクルのシステム作り
- ④ 土地・住宅に係る税制の改革(取り壊しと撤去、あるいは更地の利活用(畑や緑地、公園)に対する固定資産税減免/中古住宅の賃貸や売買、また環境共生型(国産資材/自然エネルギー・断熱・雨水利用/長寿命命)の新築住宅に優遇措置)
- ⑤ 都市計画からまちづくりへ(建築基準法の見直し/建物の用途変更の簡素化/廃校や廃業した商業施設などの転用促進/空き家の利活用(シェアハウス、若者や退職者のコミュニティビジネスの場、等))
- ⑥ 空き家対策を含めた、まちづくりへの住民参画
- ⑦ 居住の自由と権利、どこでも世界とつながるITを活用し、エネルギー自給型のインフラ整備で、分散型のまちづくり

空き家問題を先送りせず、都市計画からまちづくりへの方向転換を図ることが今、求められているのです。(武笠 紀子)

千葉から世界へ！土を耕す！未来を耕す！

「市民エネルギーちば」代表 東光弘さんに聞く

24歳で、「無農薬の大根からソーラーパネルまで」幅広く環境問題を伝える「G.A.A.」を立ち上げた東光弘さん。エコ雑貨の卸、千葉市での自然食品店の経営を経て、現在は「市民エネルギーちば実行委員会代表、ちば市選挙で日本を変えたい市民の会（千葉）共同代表などを務めながら、匠瑛市に拠点を構え、昨年9月に日本初のソーラーシェアリングによる市民共同発電所35kWhのG.A.A.を完成させた。（今年9月、22kW増設）

「伝えるにはまず、楽しく仲良く」

G.A.A.は反原発のコンセプトからスタートしたので、開店当初はドイツ緑の党のポスターを店中に貼っていたんです。緑の地に、黄色のひまわりがお洒落で。関心の高かった人たちが入ってきてもらうには、新しいビジョンや「きれい」「おいしい」といったことがすごく大事です。卸をやっているときに全国を回る中で、やはり地方の元気と東京の元気が、両輪なんだと感じました。「アースデイは」を始めたのは、みな素晴らしい活動をしているのにはほらほらだから。例えば動物実験に反対している人が、必ずしも原発に関心があるとは限らないとかね。最近はやっと横のつながりができて、市民団体も小さく天然酵母のパンやさん、農家さん、も「根っこは1つだ」ということが定着してきました。最初はどうもできなくて、土壌の循環が育まれていくうちにだんだん元気がな作物ができてくるもの。



今年で14回目を迎えた、アースデイは

こうしたイベントが増えたので、太陽光利用の音響設備や電源を格安で貸し出すほか、手帳きなどをサポートしています。「環境がこんなに危ないのに、なぜみんな気づかないんだ」という上から目線ではなく、「場」を通じて焦らずに、まずは楽しく仲良く、「ミニニケーション」して、中で徐々に伝わってくるのかなと思います。

土を耕し、未来を耕す

「ソーラーシェアリング」

25年間、原発に反対してきたけれども、僕は3.11を防げなかった。事故後、集中的に自然エネルギーの勉強を行いました。「市民エネルギーちば」は9人で作った小さな合同会社で、出た利益はすべて環境活動に還元させると定款に謳っている。実質はNPOです。野生の普通の太陽光発電は、緑だらたところをはがしてアスファルトをひくか防草シートを張る、もしくは強烈な除草剤を撒きましても僕たちのパネルの下では基本的に、微生物の力を活かした有機農業をやっています。微生物は、空気中の窒素や二酸化炭素を土中に固定してくれます。慣行の農家さんが参加したいというときには、対話を重ねながらも最初は一番毒性の高い殺菌剤からやめてもらうとか、春先の除草剤以外はやめてもらうとかしてね。今は、農業を使わない大豆作りをしています。

パネルの面積は、その下の畑の1/3くらい。適度な日陰があったほうが作物はすくすく育つんです。落花生やさつま芋などは、収量も上がるし形もよくなる。暑すぎると、根から吸い上げた水分を蒸散に多く使ってしまうので光合成に回らなくなってしまうわけです。日陰があれば、農作業もすずと楽ですよ。

「畑の上の発電所」で地域再生！

全国に200か所あるソーラーシェアリングのうち半分が千葉にあります。僕たちは単なる太陽光発電事業ではなく、農業の1つの形としてやっていきたい。最初はとにかく市民発電所を作るというのの思いが大きかったのですが、2年めからは畑も反歩借りでエネルギーと循環型農業を組み合わせた地域再生プログラムの方法論としてやっていくことを抑えることにもつながっています。現在に自社で1600kWの計画を進めることも、他の環境系の小さな会社が始める市民発電もほとんど提携協力していますし、誰でも真似できるような部品やミニアルノウハウを公開していきます。



Sun Agriの全景



見学後、おじゃましたメンバーと東さんと

畑の上で発電をすれば、そこから収入が得られます。そして青果の取扱高が年々減って作物だけじゃ採算が取れない今、農的環境自体を観光資源として付加価値をつけてあげます。加工所なども備えた農的公園みたいなものを作り、自然エネルギーの勉強ができる場も作りたい。自然エネルギー再生可能エネルギー法（※）を使って、これから準備を進めたいと思っています。Sun Agriのパネルオーナー様は、10年契約の場合6000円/枚の収入になります。自然エネルギーにはインカム収入がつくので、活動を継続させやすい。環境問題は好きでやっていたり収入にこだわらないうわいほつが、いい収入にもなったらなおさらいい経済的にも自立していれば、持続できます。

※ 農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律（26年5月施行）

インタビュの全文は、グリーンズ千葉のホームページでご覧いただけます（裏紙参照）

（構成/真木彩子）



頭だけでなく手と足も使って、「楽しい！！」をテーマに自然エネルギーの普及に取り組んでいきます

市民エネルギーちば

- 市民発電事業部 パネルオーナー制度を活用した共同発電所の運営
- パネル販売事業部 ソーラーパネル販売に関する管理・運営
- コーディネート事業部 市民発電所に関する施工・リース・コンサルタント

県内の環境や自然エネルギーに関わる6つのグループの団体が集まり、2014年7月に設立。「私たちのチカラで創る地域のエネルギー」をめざす、非営利型の合同会社です。

回瑛第一発電所「Sun Agri」所在地
匠瑛市飯塚2634

パネル作りや設置作業の見学・体験も歓迎します！宿泊も可。



農遊舎の「農的くらし」

私たちが大阪府堺市から「農的くらし」を求めて、いすみ市に来て32年になります。共有地である山（みねこし山）の一部、750坪の土地に「農遊舎」を作りました。小屋を自分で建て、鶏を飼い、野菜をつくるという昔ながらの自給的な手づくりのくらしをさせていただきました。大阪時代から



緑豊かな「農遊舎」

手づくりの味噌やどぶろくを作ってきましたが、いすみ市に来てからは大豆や米を作るようになったので、味噌には自家製の大豆、どぶろくには自分たちの米からさらした麹を使って作るようになりました。さらにどぶろくの活性酒かすはパンの発酵や



手造りの鶏舎で、健康に育つ鶏たち

また近くの牧場の牛乳と、うちの卵との物々交換も、始めてから30年になります。うちの庭で採れたバラやカモミールで作ったハーブウォーターは、とても好評です。私たちが考えた農的くらしは、有機農法をベースにゆっくりコツコツとくらしを作っていくというものです。そして買っていたらいいお客様や友人達との交流の場として「農遊舎カフェ」を作りました。4-5年前から基礎

工事を始め、サツシ類や厨房用のシンクや換気扇を友人、友人から譲ってもらい、古材やB級材も利用して、ようやくできました。自家焙煎したコーヒーや、物々交換のミルクを使ったカプチーノをきっかけに、ゆつくりした農遊舎カフェの時間を共有したいと考えています。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

cafe 農遊舎

齋藤 博・直子
いすみ市田1105
0470-86-4151
noyusha@yahoo.co.jp

（お立ち寄りの際は、事前にご電話を頂ければ幸いです）



自家製ハーブウォーター
ローズ 75ml ¥840